

被爆の実相から目を背けるな！

第54回国鉄原爆死没者慰霊式典！！



国労中国

2026年
8月9日

第5号

発責 倉下文明

編集 教宣部

8月2日、広島市内の東白石公園内に建立してある国鉄原爆死没者慰霊碑にて、国労・西労組組合員、退職者の会、JR各社の代表、ご遺族様など約80名の参列のもと第54回となる慰霊式典が執り行われました。

原爆投下から81年目の日を迎えるにあたり、改めて原爆の非人間性・戦争の愚かさについて思いをはせ、原爆でお亡くなりになられた方々に対して衷心より哀悼の誠を捧げ、再び原爆による惨状を繰り返さないとの誓いを新たにしました。

式典では、参加者全員で黙祷を行った後、主催者を代表して国労広島原爆被爆者対策協議会佐々木会長より、式辞（別掲）が述べられ、御霊が祀られることな

被対協佐々木会長式辞（要旨）

本日54回目の式典を執り行うことが出来た。ご尽力頂いた皆様に感謝申しあげたい。

2021年核兵器禁止条約が発効され、署名国・批准国は100ヶ国となった。一方、核弾頭は地球上に1万2340発存在すると言われている。また、核拡散防止条約再検討会議は、3回続けて最終文章が不採択となった。

国内では目に見える「平和を求める運動」

が続いている。日本被団協・日本原水禁・日本原水協に日本生協連も参加した4団体による共同行動が実現した。ペンライトやプラカードを掲げて「反核と平和を願う取り組み」に連帯した行動が国内各地で行われている。

高市政権の進める現代版「富国強兵政策」を後押しするように、防衛大臣・与党・維新の会などが、安保3文書改訂で「非核3原則



追悼の辞を述べる植田委員長



式辞を述べる佐々木会長

りました。続いて、国労被爆者対策協議会を代表して国労西日本本部植田委員長より「追悼の辞」が述べられ、参列者による献花と「国鉄広島ナッパーズ」を検討対象」としていることに、怒りを禁じ得ない。

皆さんと一緒に、明日が一步、明後日もう一步と核兵器のない世界に近づくよう願い、行動を続けることを慰霊碑の御霊に誓い、式辞とする。

世界の仲間と共に

8月1日、米子地区本部組合員とご家族が作成した「折り鶴」が、広島平和記念公園に建立してある「原爆の子の像」横のブースに掛けられました。

このブースには世界中から届けられた折り鶴が掲げてあります。折り鶴をとおり、世界中で平和を願う人々との連帯を感じました。



平和への折り「折る鶴」

微力でも無力ではない！！

7月27～28日にかけて、静岡県湯河原市で開催された「第95回定期全国大会」には、岡山地区本部の勝田代議員が参加し、発言をされました。勝田代議員の発言は、以下三

点目です。中国地本職を結成したが、現職拡大が急務である闘う姿を見せ、必要性を感じてもらったことが大事である。二点目は、安全問題です。伯備線では、あや触車という事象も発生している。睡眠一時間で乗務

させており、法的規制が必要だ。引き続き交渉を強化していきたい。

三点目は、ローカル線問題です。存廃議論が進む芸備線を守ろうと中国運輸局、庄原市への要請行動を展開してきた。地域の仲間とともにローカル線を守り抜く。

微力でも無力ではない。全力で闘う！



発言する勝田代議員

の皆さんによる歌による追悼が行われ、最後に式辞の進行を担った国労広島被爆2世の会の方より、「宇宙から地球を見ると国境などどこにもない。国境のない平和な世界の実現に向けて、これから奮闘していきたい」との思いが述べられ、式典を終えてきました。

8月6日に広島平和記念公園にて開催された「平和祈念式典」に出席した高市首相は、被爆者からは「高市首相は、核兵器の非人間性を本心に理解しているのか」との疑問が出されています。

式典で、子供代表が平和への誓いで述べたのは「平和とは誰かから与えられるものではなく、世界中の人々でつくり上げるもの」でした。戦争のない平和な世界の実現に向け、職場・地域で一人一人出来ることを、どんな小さなことから実践していこうではありませんか。次世代への責任として！！